令和５年度オーガニックビレッジ全国集会資料

令和６年１月１５日（月）

山形県川西町

オーガニックなまちづくりをめざす川西町の取り組みについて

川西町長　原田　俊二

今回の内容（ポイント）

１　町の概要（農業情勢）

２　かわにしオーガニックビレッジ宣言の３本柱

３　これまでの成果と今後の課題

川西町の農業情勢（慣行と有機の比較）

農法	慣行農法	有機農法
実施面積	約4,867ha	約28ha
経営体	871	16
販売先	ＪＡ＞直売(ふるさと納税含)	直売、ネット販売等
面積意向	拡大＞維持	拡大＜維持
担い手	減少傾向	減少
課題	農地維持のため、大規模経営に 規模拡大に対応する作業の効率化	有機の取組の拡大
共存するうえで 必要なこと	相互理解・有機農業の団地化・有機農業の普及	

※令和５年２月実施「かわにしオーガニックビレッジ推進協議会アンケート調査」より抜粋

ゼロベースからのスタート

消費者の声

・有機ってそもそも何？
・どこに売っているか…
・高価なもの

行政課題

オーガニックビレッジを宣言したものの
・右も左も分からない
・どこから手を付ければよいか

生産現場

（有機って）
・農薬を使わない農法?
・圃場管理が行き届いていない
・慣行が悪いみたいな言い方を

農家や消費者も含め有機農業に対して<u>理解が課題</u>

有機農業を推進するための
2つの視点と2つのポイント

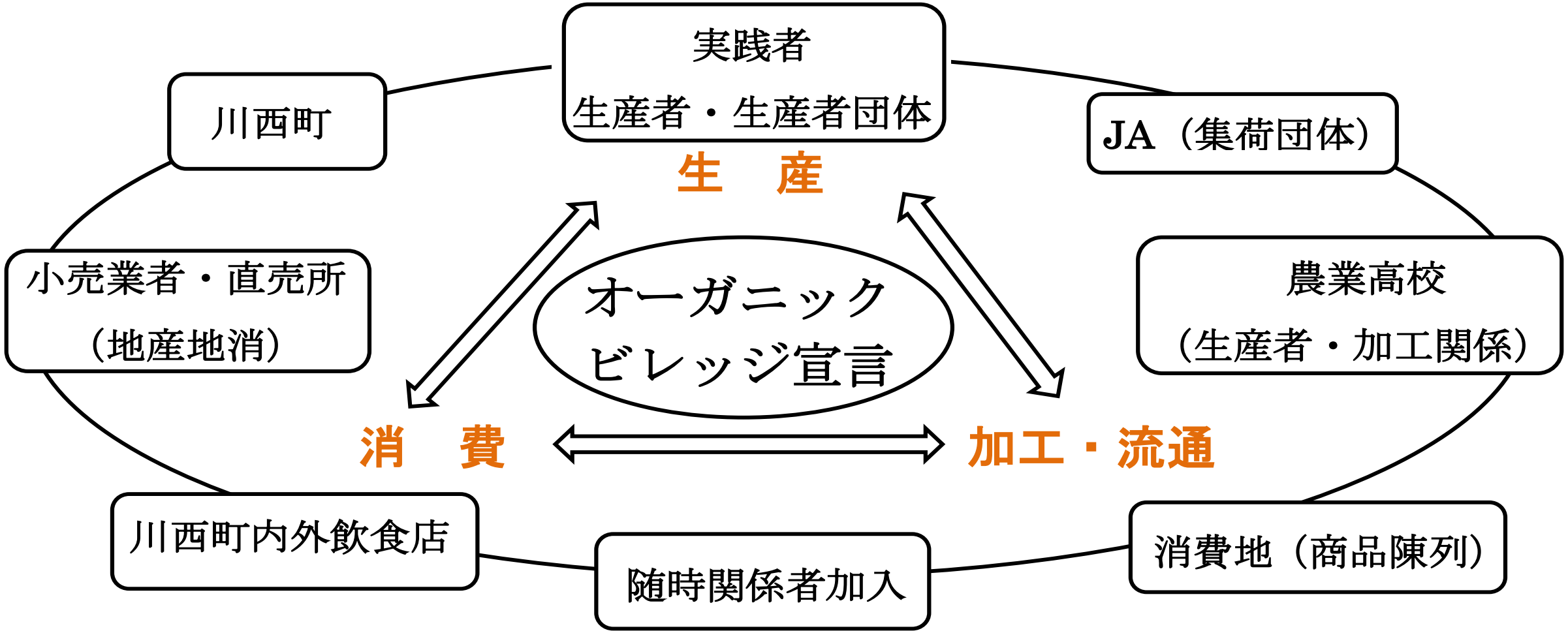
視点		ポイント
多種多様な考えがあることの理解 -情報と課題の共有-	相互理解の促進	心理的な反発や抵抗を軽減 -心理的反発軽減-
当たり前(考え方・やり方)からの脱却 -再構築-		ゆるくつながる関係づくり -関係性-

〇丁寧な説明と共有～慣行農業と有業農業に軋轢が生じないように～

〇有機農業の推進だけを考えない

～教育(食育)や環境など一体的に考える～

かわにしオーガニックビレッジ推進協議会体制図（宣言時）



サポーター

- 山形県(補助事業・技術指導)
- 食生活改善推進員（消費関係）
- 外部アドバイザー（事業全般）
- 事務局（川西町）

本町が推進する３本柱

［農］環境に配慮した健全な作物を生産する
「土づくり運動」の推進

［食］ＳＤＧｓを実現する食料品の地産地消等
食育の推進

［学］命の結びつきを学ぶ
食農教育の創出

これまでの成果

〇横のつながりを創出

幅広い年代（生産者・消費者問わず）へ有機農業の情報を発信

〇新規参入者の掘り起こし

有機の経験がない若手農業者(団体)が転換意向　※品目：水稲・大豆

〇行政の活動(県基本計画の特定区域として全国初指定)

地域計画にも“有機”の視点を取り入れるきっかけに → 団地化へ

〇学校給食の実施による食育の推進

これまで有機農産物の提供は０日だったが、今年度は10日間実施

今後の課題

○<u>有機農業の理解促進</u>

　　継続した有機農業(オーガニック)の認知度拡大

○<u>有機農業技術の確立</u>

　　効果的な施肥技術、雑草（抑草）対策技術の確立

○<u>有機農業の指導体制強化</u>

　　技術指導員や栽培指導員の育成

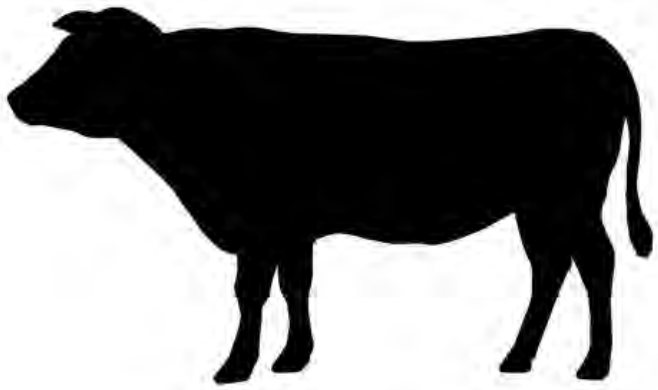
○<u>経営戦略の確立</u>

　　有機農業と慣行農業の融合と出口戦略の確立

○<u>環境整備</u>

　　有機農産物の品目拡充と有機ほ場の団地化の検討

米沢牛の郷



土づくりに
牛ふん堆肥を活用

稲わらを粗飼料
として活用

川西町がめざす
有畜連携による
循環型農業

有機栽培で農作物収穫